

シリーズ「地域連携」③

医療ソーシャルワーカー

独立行政法人国立病院機構和歌山病院

山下 彰一

病院で勤務している職員を思い浮かべた際、医療ソーシャルワーカーの師、看護師、薬剤師等の職種が頭に浮かんでくる方が多いと思います。もちろん病院にはこのよう

なスタッフが数多く在籍していますが、その中には、「医療ソーシャルワーカー」がいます。この職名を初めて聞かれる方も多くいるのではないのでしょうか。病院には定期的に行っているけど知らないという方もいると思

なことができません。なぜなら、誰もが病気になる準備などしていないからです。怪我や病気は、いつ起こるかかわからない。予期せぬ入院をし、治療に専念できずパニックになった患者さんもうらっしゃいました。

患者さんが治療に専念できるよう、今後の生活を行う上での心配を少しでも軽減できるようにサポートしていくのが、医療ソーシャルワーカーの役割なのです。私たちは、医療のみではなく、福祉の面にも視野を持ち、患者さんと関わっていくことにより、治療中、入院中、退院後の生活を一貫してサポートしていくことができる専門職です。そのため、サポー

トの際はあらゆる専門職、医師、看護師、介護支援専門員、行政などと繋がりをもち、関わっていきます。

では、実際にどんなサポートをしているのかと聞いてみると、急な入院で日常生活品がない時の入院中の支援、治療に掛かる医療費についての相談・提案、退院後に自宅での生活ができるかなどの退院支援等、多種多様な個人個人生活背景が異なるので、誰一人同じサポートはありません。私たちは患者さん、家族と一緒に考え、必要な機関との繋がりを作っていくことで、一つのサポート体制を作り上げます。医療と福祉の分野を繋ぐ職種、医療ソーシャル

ワーカーのサポート方法には、決まった形はありません。だからこそ、柔軟に患者さんに合わせて関わりを持つことができると考えています。

医療ソーシャルワーカー個人では十分なサポートはできません。しかし、地域にあるあらゆる機関を繋ぎ合わせ網を張ることで、患者さん、家族を一つの対象としてサポートする体制を作ること、それが「地域連携」であると私は考えています。

近年は、数多くの病院に医療ソーシャルワーカーが配置されています。複雑化する患者支援にスムーズに対応できるように体制をとっています。当院にも、地域医療連携室に2名の医療ソーシャルワーカーが在籍しています。患者さん、その家族、または関係のある機関からも相談を受けています。「こんなこと聞いてもいいのかな」「こへの相談であってるかな」と考えられている方もいらっしゃると思いますが、何でも相談しても構いません。日頃不安に感じていることでも大丈夫です。もし、私たちがの回答が難しい場合であっても、専門機関に問い合わせ、患者さんと繋ぐことも可能です。私たちは患者さんの「どうしたらいいの?」「どう思うに寄り添えるよう努めています。」